

江戸時代の旅人氣分

海山 銚子川で舟渡しを再現

熊野古道の世界遺産登録五周年を記念し、伊勢路の川渡し歴史をひもとく「川船サミット」が七、八日に開かれた。

熊野古道の途中には多くの川があり、当時の巡礼者たちは川舟で川を渡って旅をした。シンポジウムは、川渡しをテーマに活動する団体が交流する目的で、紀北町の特定非営利活動法人(NPO)

法人「ふるさと企画舎」が企画した。

初日は尾鷲市向井の熊野古道センターでシンポジウムを開催。地域活性化につなげようと大台町の「三瀬の渡し」や新宮市の「熊野川三反帆」などを再現している関係者が参加し、活動事例を報告した。

二日目は紀北町海山区の銚子川で舟渡しを再現された。ふるさと

企画舎の田上至理理事長が江戸時代の船頭の衣装を身につけて案内役を務め、観光などで訪れた県内外の九人に、当時の巡礼者の川舟の歴史について説明した。その後、熊野杉で作った長さ四・五メートルの木舟に実際に乗り込み、船旅を味わった。

愛知県豊田市から訪れた井上豊治さん(左)は「昔は水位が高かつ

た。愛知県の豊田市から訪れた井上豊治さん(左)は「昔は水位が高かつ



再現された舟渡しを楽しむ参加者たち＝紀北町海山区の銚子川で

たらしいので、船頭は「てうれい」と笑顔で大変な苦勞だったと思見せた。

(福田大展)